



消防大学校だより

■ 幹部科第37期

消防大学校では、総合教育（幹部教育）学科において、消防に関する高度の知識及び技術を総合的に修得させ、消防の上級幹部たるに相応しい人材を養成することを目的に「幹部科」を設置しています。

本年度の幹部科4期（第37期～第40期）のうち、第37期では、入校前の学生が年明けの1月から約4か月間、各々の所属でインターネットによる事前教育（eラーニング）の受講を経て、全国より消防大学校に集まった50名が6月9日から7月24日までの約1か月半の全寮制の集合教育を終え、全員が無事卒業しました。

消防大学校の教育訓練では、東日本大震災や最近の災害・事故等の教訓を踏まえ、教室等での座学（講義）や実技を伴う実科訓練を実施しました。座学では、消防関係法制における法制・制度の体系や、組織運営における人事・安全・危機等の各種管理などの修得に努めました。また、学生各班が自ら課題設定の上、解決策を発表する実務研究では、人事育成をテーマとする課題が多く見受けられ、各々の認識共有や今後の問題解決の端緒を得る有意義なものとなりました。

一方、実科訓練では、大規模災害時の現場指揮・活動要領による指揮訓練、火災防ぎょ活動時の安全管理による実火災対応型訓練（ホットトレーニング）、映像や通信情報の状況付与による指揮シミュレーション訓練などを実施しました。

今後は、消防大学校で修得した高度な知識・技術に加え、得られた全国の情報を活かし、幹部として所属を導き、地域の安全の確保・維持のため活躍することが期待されます。



実火災体験型訓練の様子



課題研究発表の様子

火災調査科第27期

消防大学校では、専科教育学科において、火災調査業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させ、火災調査業務の教育指導者等としての資質を向上させることを目的に、「火災調査科」を設置しています。

本年度の火災調査科2期(第27期及び第28期)のうち、第27期では、全国より集まった48名が6月11日から7月30日までの50日間にわたる教育訓練を終えて、全員が無事卒業しました。

教室等での座学(講義)では、火災調査の進め方や現場の見方などの基本要領に始まり、火災調査を取り巻く法律関係や対人折衝能力、教育技法、実務上の課題への対応力の向上を図るほか、情報公開や、報道対応としての消防広報のやり方などの修得に努めました。

一方、実技を伴う実科では、模擬家屋火災、車両火災、電気火災、化学火災、微小火源火災及び放火・燃焼機器火災の鑑識実習を実施しました。この鑑識実習のうち、模擬家屋火災では、約20㎡の建物を4棟仕立て、その内装や家財を実際の家屋と同様に設定し、異なる出火原因で燃焼

させた上で、現場と同じように火災調査を進めていくものです。各棟に配置された講師の指導の下、調査の基本から応用まで広範囲にわたる実習となりました。各棟とも、製造物から出火した可能性を見据え、後日、出火箇所付近にあった製造物の鑑識を実施したほか再現実験等を行うなど、科学的かつ客観的な火災調査の実践に努めました。

学生からは、入校当初の目標を達成することができ、大変有意義であったとの意見が多く寄せられたほか、同じ目標を持った仲間が全国から集い、入校期間中は様々な意見を交わすことができたことはたいへん貴重であったとの感想も多くみられました。

今後、消防大学校火災調査科の卒業生としての誇りと自信を持ち、科学的根拠に基づいた火災調査業務を遂行し、火災予防に寄与することが期待されます。



電気火災の鑑識実習の様子



車両の鑑識実習の様子



模擬家屋の消火の様子



焼損した模擬家屋の調査実習の様子

問合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712